

## 市電保存館から梅の岡村天神・三殿台遺跡を歩く

日時:2018年2月21日(水) 天候:曇り 12000歩 約9km

集合:JR根岸駅 10時

コース:根岸駅→柳下邸→横浜市電保存館→岡村公園(岡村天満宮)→三殿台遺跡→市営地下鉄弘明寺駅(解散)

参加者:平嶋(L) 平野(SL) 班長=藤原 森川 志村

勅使河原 小作 常盤 神谷 平石 仲 大平 奴田 伊藤真 小野里 菊池 深瀬 中村年 小林 井内 小島  
市村 丹後 武倉 奥村 山田 中林 長廣 赤須 仁井 高橋友 脇坂 計32名



“梅一輪 一輪ほどの 暖かさ”(嵐雪)・・・確かに梅の蕾もほころび暦の上ではすでに春ですが、この日は朝から気温が低く冬に逆戻りしたような一日でした。今回は懐かしい市電が展示されている「横浜市電保存館」と、縄文・弥生・古墳時代と三期にわたり生活が営まれた「三殿台(さんとのだい)遺跡」に加え、岡村公園での観梅と、結構アップダウンがあったものの中身の濃い平日例会でした。

<フォトレポート 小島>



<岡村天満宮で。本殿の朱色と紅梅で女性は一段と輝いています！男性陣も少しはイケメンに撮れたかも？>

※岡村天満宮:鎌倉時代の建久年間(1190年～1198年)の頃に、源頼朝の家臣が、京都の北野天満宮の分霊をいただき、この地に社を創建したのがはじまりといわれている非常に由緒正しき神社。明治から大正にかけては、杉山天満宮と呼ばれていたようですが、昭和5年に、住民にとって馴染み深いこの地名の「岡村」を取って、岡村天満宮と改称されました。「ゆず」の出身地で壁画もあってファンには聖地のひとつ。



朝の根岸駅前。寒いので皆さんまだ冬支度です。



根岸なつかし公園。園児たちが“占領”していました！



仕方ないので旧柳下邸へ向かいます。頭上には白梅が。



このスペースでコース説明と平野S.Lのストレッチ。



柳下邸の表玄関。玄関が二つあります。



庭園の紅梅はまだ二分咲き程度。



室内には雛飾りが。これを見ているともう春ですね・・・



“集金中”の志村さん。市電保存館の入館料です！



園児たちに見送られて柳下邸を後にします。



坂下橋から見る掘割川も寒々とした風景です。



横浜市電保存館に到着しました。上の階は住宅。



団体割引で入館。(缶バッジをもらう)



この運転手大丈夫？危険かも・・・



ここ滝頭電停も復元展示。





これだけ並んでいるとマニアには感動もの！



市電の車内。板張りの床で味がありますね。



この車両は丸みのついた最終型か？



館内には鉄道ジオラマが。N・HO・Oゲージもあり。



平嶋も童心に戻って市電運転手に・・・



杉田線の写真。乗ったことがあった！



車掌の制服。



当時は憧れの職業だったのでは？



かつての桜木町駅付近です。

(古写真は館内の歴史展示コーナーより)



ランチは入り口横の「しでんほーる」で。ここはイベントスペースで予め予約したお蔭で利用できました。



今頃歩きながら食べている人が。マナー違反ですよ！



丸山市場を歩きます。今日は殆どの店が休みのようで。



美空ひばりの実家があった所。



小さな商店が軒を並べています。



アーケード内はひっそりと・・・



商店街を抜けると住宅街へ。



鳥居が見えて来ましたがここから参道？



岡村天満宮に着きました。早速白梅がお出迎え！



ここは「ゆず」の出身地。(ゆずと言えば柚子湯しか・・・)



梅も恥じらうこの笑顔！あの道真さんも納得？



しっかりとお賽銭をあげてね。我々の分も宜しく！



ここから岡村梅林に下ります。



陽当りの良い場所は開花が進み・・・梅まつりが開催されていました。



この紅梅はすでに満開を迎えています。



他はまだ蕾状態。あと一週間くらい先か。



岡村交番前。この辺りもゆず関連の聖地です。



結構な坂道を上がって辿り着いた先は・・・



ここは「三殿台遺跡」。遺跡内には多くの住居跡が密集し、ここが大規模な集落跡であったことが分かります。  
※三殿台遺跡は横浜市磯子区岡村にある縄文・弥生・古墳時代のムラの跡です。遺跡は標高55メートルほどの小高い丘の、約10,000平方メートルの広さがある平坦な場所にあります。丘の周りの斜面には数か所の貝塚が点在し、明治30年代に発見され、「屏風ヶ浦岡村貝塚」の名称で紹介されて注目されるようになりました。その後、隣接する市立岡村小学校の校地拡張予定地となったため、1961(昭和36)年夏、多くの研究者や中・高・大学生、市民ら延べ5,000人が参加して、遺跡全体の発掘調査が行われました。調査の結果、縄文時代から古墳時代にわたる約250軒もの竪穴住居跡が見つかりました。特に弥生時代の住居は170軒近くあり、当時のムラとしては大変貴重なものであることがわかりました。そのため、大岡川流域の原始・古代のムラの様子と生活の内容を知ることができる重要な遺跡であるとして、1966(昭和41年)に国の指定史跡となり、翌1967(昭和42)年、三殿台考古館が開館して、遺跡とともに公開されています。(三殿台考古館HPより)



実際の竪穴住居跡が建物内に保存されていました。



復元住居内は入れます。一度住んでみたら？



皆で現在地を確認中！（二本の指が妙に気になる画）



このような高台にありました。眼下の更地は貝塚跡。



ここからは標高55mを一気に下ります。



階段ばかりの住宅街。買い物はどうするの？



ランドマークも望め高台なの分かります。



また階段。皆さん足は大丈夫ですか？



やっと下界に下りてきました。



駅を前にここで一旦解散となりました。



ゴールの地下鉄弘明寺駅。ここで帰る人もいましたが殆どは“時間調整”で弘明寺に行くことにシアード街へ。



下町風の弘明寺商店街。買い物客も多く活気あり。



弘明寺。ここは横浜市内最古の寺です。



※今日は9kmと程良い距離で楽しむことが出来ました。このコースを歩いていると、磯子辺りは坂道が多いのが分かります。おそらく古代には今よりも海が近かったのではないのでしょうか。三殿台の古代人達も、そんな便利さでこの地を選んだのかも知れませんね。しかし高台に連なる住宅街は、高齢者にはキツイ環境のようで、他人事ながら気がかかります。梅はやや早いようでしたが、梅の香りを嗅ぐことが出来たので良としましょう。梅と言えば、小畑実の♪湯島の白梅♪が思い出されます(古い!)。小説や歌では、紅梅よりむしろ白梅の方が“色気”があったようですね…皆さんお疲れ様でした。

←弘明寺で一日の無事に感謝!

END